

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科/ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2022年度	1年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
学科	文章技法論	太田克彦	1単位 24時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
<p>伝えるための道具として言葉を使う前に、しりとりや回文、川柳といったナンセンスやリズムによる言葉遊びから始める。与えられたキーワードで絵を描いたあとから作文するという方法により、想像力を広げていく。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
<p>文章を書くことに対する苦手意識をまず払拭し、言葉を連ねる作業の楽しさを実感する。このトレーニングにより、言葉が美術制作をするときに、色や形や空間を構成するうえでより効果を上げていく役割を果たせるようにする。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	セルフポートレート (自画像) を書く		
2	ことば遊び [1] しりとり、アクロスティック (頭文字で遊ぶ)		
3	ことば遊び [2] アナグラム (文字の並べ替え)、回文		
4	ことば遊び [3] 川柳をつくる		
5	ことば遊び [4] 短歌をつくる		
6	オートマティズム (自動記述) の実験		
7	記憶にあるイメージをスケッチする		
8	マインドマップ (次元を変えたメモのとり方)		
9	映像を文章に起こす		
10	オノマトペを楽しむ		
11	民話のパロディをつくる		
12	物語をつくる		
13	落語・お笑いに学ぶ		
14	詩を書く		
15	書評を書く		
16	自作を語る		
<b>【成績評価方法】</b>			
<p>レポート課題の提出を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、成績評価を行う。なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格 (59～0：D) 仮処置：保留</p>			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>講義形式を基本とするが、各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。</p> <p>1940年東京都生まれ。法政大学、桑沢デザイン研究所卒業。河出書房、『週刊ポスト』『ニューミュージック・マガジン』誌の編集者、CBSソニー出版 (現ソニー・マガジズ) の編集長を経て、現在フリーのライターおよび編集者。</p>			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科/ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2022年度	1年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
学科	日本美術史A	北進一	1単位 22.5時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
<p>最初に法隆寺金堂釈迦三尊像や玉虫厨子、広隆寺弥勒菩薩半跏思惟像など飛鳥時代の仏教美術から始まり、奈良時代の興福寺阿修羅像や東大寺法華堂不空罽索観音像、平安時代の神護寺薬師如来像と東寺講堂諸仏、平等院鳳凰堂阿彌陀如来像、平安仏画、鎌倉時代の運慶仏などの仏教美術を通観する。その後、平安末期の信貴山縁起絵巻や鳥獣戯画、室町時代の雪舟・雪村などの水墨画を取り上げ、古代・中世の日本美術の本質を探ってゆく。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
<p>古代から中世までの日本美術は、東アジア文化圏の産物の一端として、そのイメージの源泉のほとんどを朝鮮半島や中国大陸に求めることができる。本講は、仏像・仏画・絵巻物・水墨画などを取り上げ、朝鮮や中国の作例と比較して、それらの造形（イメージ）の本質を具体的に追求してゆく。日本美術史を従来の様式論でおさえるのではなく、イメージの解釈という新たな視点から日本文化史の中に位置づけて探求してみたい。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	日本美術史の時代区分と飛鳥時代の伽藍配置		
2	飛鳥・奈良(白鳳)時代の国宝仏像		
3	飛鳥・奈良時代の国宝絵画		
4	正倉院絵画		
5	密教の成立と平安時代の国宝仏像		
6	平安時代の国宝仏像		
7	平安時代の国宝仏画		
8	平安時代のやまと絵と四大絵巻		
9	平安時代の四大絵巻		
10	平安時代の四大絵巻		
11	鎌倉時代の国宝仏像		
12	鎌倉時代の国宝絵画		
13	水墨画の成立		
14	室町時代の国宝絵画		
15	室町時代の国宝絵画		
<b>【成績評価方法】</b>			
<p>レポート課題の提出を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。            なお出席が全体の2/3以下の場合、成績評価の対象外となる。            合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留</p>			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>講義形式を基本とするが、各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。</p> <p>和光大学卒業後、中国・山東大学に留学。群馬県立女子大学兼任講師。専攻は日本および東洋美術史。著書に『ほとけを知る一仏像めぐりハンドブック』（シンコミュージック・エンターテイメント）『アシュラブック』（美術出版社）、共著に『カラー版東洋美術史』（美術出版社）。</p>			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科/ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2022年度	1年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
学科	視覚文明史	太田克彦	1単位 24時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
制作上の技術は必須である。しかしそれはあくまでも必要条件。名作と呼ばれている作品には、すべて優れた発想と想像力がある。したがって作品内容をより高めるための発想力を身につける方法を学ぶ。			
<b>【講義概要】</b>			
古代から現代、そして未来までのパースペクティブを、視覚文化という次元から検討する。その分野は文学や演劇、ダンス、ファッションから音楽にまで広げ、それらが美術とどのように関わっているのかを学習する。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	西洋の発想		
2	東洋の発想		
3	死の誘惑		
4	生の魅力		
5	縄文の文化		
6	シンクロニシティ (共感覚)		
7	身体 [1] メタモルフォーゼ (変容)		
8	身体 [2] 手について		
9	身体 [3] 眼について		
10	戦争とアート		
11	アニメーションの原点		
12	アールヌーボーとアールデコ		
13	ファッションと現代美術		
14	表現の社会性		
15	建築の典型		
16	習作の重要性		
<b>【成績評価方法】</b>			
レポート課題の提出を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
講義形式を基本とするが、各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。			
1940年東京都生まれ。法政大学、桑沢デザイン研究所卒業。河出書房、『週刊ポスト』『ニューミュージック・マガジン』誌の編集者、CBSソニー出版(現ソニー・マガジズ)の編集長を経て、現在フリーのライターおよび編集者。			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科/ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2022年度	1年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
学科	日本美術史B	北進一	1単位 22.5時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
<p>最初に日本絵画の黄金時代とされる桃山時代の絵画、特に狩野永徳と長谷川等伯の絵画などから始まり、俵屋宗達や尾形光琳の琳派絵画など江戸時代の絵画へ展開してゆく過程を探究する。その後、池大雅や与謝蕪村などの文人画、円谷応挙などの写実派、伊藤若冲などの奇想派や浮世絵師の絵画を取り上げ、江戸絵画の本質を探ってゆく。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
<p>近世以降の日本美術は、中世までの宗教色の濃い美術から脱し、世俗的で鑑賞性の高い美術へ変貌してゆく。本講は、桃山時代の障壁画や江戸絵画などを取り上げ、独自の色彩と形態を追求してゆく有様を見てゆく。日本美術史を従来の様式論でおさえるのではなく、イメージの解読という新たな視点から日本文化史の中に位置づけて探求してみたい。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	狩野永徳の絵画		
2	狩野永徳の絵画		
3	長谷川等伯の絵画		
4	長谷川等伯の絵画		
5	長谷川等伯の絵画		
6	俵屋宗達の絵画		
7	俵屋宗達の絵画		
8	尾形光琳の絵画		
9	池大雅と与謝蕪村の絵画		
10	円山応挙の絵画		
11	伊藤若冲の絵画		
12	狩野一信の絵画		
13	浮世絵の変遷 その1		
14	浮世絵の変遷 その2		
15	浮世絵の変遷 その3		
<b>【成績評価方法】</b>			
<p>レポート課題の提出を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合、成績評価の対象外となる。 合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留</p>			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>講義形式を基本とするが、各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。</p>			
<p>和光大学卒業後、中国・山東大学に留学。群馬県立女子大学兼任講師。専攻は日本および東洋美術史。著書に『ほとけを知る一仏像めぐりハンドブック』（シンコミュージック・エンターテイメント）『アシュラブック』（美術出版社）、共著に『カラー版東洋美術史』（美術出版社）。</p>			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科/ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2022年度	1年・前期/後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
選択学科	英会話	ティム・ウェイレン	2単位 45時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
芸術やデザイン分野で活躍しようと思っている人たちに役立つ表現および単語に焦点を合わせて基本英会話レッスン。			
<b>【講義概要】</b>			
海外の友達と会話するときや、芸術・デザインの世界の現場で英語を使うときでも、スムーズにコミュニケーションができるように、レッスンはフリートーク、リスニング演習、簡単なテキスト（プリント）の三つの部分に分けられています。リラックスした雰囲気の中で自分の英語力を伸ばしましょう。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション	17	講義
2	講義	18	講義
3	講義	19	講義
4	講義	20	講義
5	講義	21	講義
6	講義	22	講義
7	講義	23	講義
8	講義	24	講義
9	講義	25	講義
10	講義	26	講義
11	講義	27	講義
12	講義	28	講義
13	講義	29	講義
14	講義	30	後期試験
15	講義		
16	中間試験		
<b>【成績評価方法】</b>			
<p>期末ごとに試験を行い100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。            なお出席が全体の2/3以下の場合、成績評価の対象外となる。            合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留</p>			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>講義・ディスカッション形式を基本とするが、各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。</p> <p>カナダ ブリティッシュコロンビア州生まれ。1979年-1980年東京にて英語教師。1980年-1981年ブリティッシュコロンビア大学で日本語を学ぶ。1983年-1985年東京デザイン学校でグラフィックデザインを学ぶ。1987年-1995年企業にて翻訳、テクニカルライター。現在フリーの翻訳家及び英語教師。</p>			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科/ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2022年度	1年・前期/後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
選択学科	フランス語I	内田雅樹	2単位 46.5時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
<p>全くの初心者を対象として、フランス語の初歩的な会話表現や初級文法の習得を目指します。座学ではなく実習形式で、初回から実践的側面を重視した会話訓練に入ります。また、リアルタイムのフランスの情報を使用しながら、言語のみならず社会、文化的側面への視野も広がります。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
<p>前期は、挨拶から始まる一連の簡単な会話表現台本として構成された&lt;ウォームアップのためのダイアログ&gt;を、毎時間少しずつ増やして学習する形で進行します。その実践の過程でおのずと生じる疑問を解消するべく初歩的な文法を学んでいきます。後期は、前期の反復練習を基礎としながら、日常すぐに役立つ基本表現へと展開し、その過程では、俳優の基礎訓練にヒントを得た効率のよい吸収の方法を、遊び感覚を交えながら共に体験していきます。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション	17	講義
2	講義	18	講義
3	講義	19	講義
4	講義	20	講義
5	講義	21	講義
6	講義	22	講義
7	講義	23	講義
8	講義	24	講義
9	講義	25	講義
10	講義	26	講義
11	講義	27	講義
12	講義	28	講義
13	講義	29	講義
14	講義	30	講義
15	講義	31	後期試験
16	中間試験		
<b>【成績評価方法】</b>			
<p>期末ごとに試験を行い100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。なお出席が全体の2/3以下の場合、成績評価の対象外となる。 合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留</p>			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>講義・ディスカッション形式を基本とするが、各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。</p>			
<p>1969年福岡県生まれ。早稲田大学大学院文学研究科仏文専攻修士課程修了。多摩美術大学非常勤講師。また俳優養成所を経て映画・舞台に出演、受賞作多数。朗読、吹替え、PVやアートビデオ出演の他、THEATRE茶房の冠ではプロデュース、演出を兼務。俳優術を生かした外国語習得の方法論の探求、実践に取り組む。</p>			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科/ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2022年度	1年留学生・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
選択学科	日本語	蔣 燕萍	2単位 51時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
美術・デザインに関する専門用語の勉強によって、日本語（特に口語能力）の向上を目標として挙げます。			
<b>【講義概要】</b>			
1.1分間スピーチ（30分） 2.美術関係記事についてのディスカッション（50分） 3.映像教材を用いた美術用語導入（90分） 4.前回導入した美術用語のチェック小テスト（10分） 5.課外宿題			
回	授業計画及び学習の内容		
1	模擬試験	17	模擬試験
2	講義		
3	講義		
4	講義		
5	講義		
6	講義		
7	講義		
8	講義		
9	講義		
10	講義		
11	模擬試験		
12	講義		
13	講義		
14	講義		
15	講義		
16	講義		
<b>【成績評価方法】</b>			
試験を行い100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
講義・ディスカッション形式を基本とするが、各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。 中国福建省出身。2008年来日。2011年日本語能力試験N1合格。2014年3月札幌大学経営学部経営学科卒業。2014年4月株式会社アイデム入社。新卒担当のエージェントとして留学生の就職をトータルサポート。2016年7月より創形美術学校にて主に広報活動と留学生教育に携わる。			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科/ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2022年度	1年・前期/後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
選択学科	特別講座/就職セミナー	ゲスト講師、専任教員	1単位 18時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
<p>特別講座：現代社会においてクリエイターの役割は益々重要性を増し、その領域は日々拡大しつつあります。講座では創作における考え方、発想法をリアルタイムな講義を通して学んでいきます。</p> <p>就職セミナー：就職活動から入社後の心構えやクリエイターとしての取り組みなどについてセミナー講座を開催。</p> <p>*1年生は夏課題と合わせて単位修得</p>			
<b>【講義概要】</b>			
6/11(土)海外講座A、6/24(金)1年生就職セミナー、10/15(土)同窓会講座、11/19(土)海外講座B、12/10(土)創形展講座、2/18(土)1年生就職セミナー +夏課題			
回	授業計画及び学習の内容		
1	海外講座A		
2	1年生就職セミナー		
3	同窓会講座		
4	海外講座B		
5	創形展講座		
6	1年生就職セミナー 夏課題		
<b>【成績評価方法】</b>			
<p>課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。</p> <p>なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。</p> <p>合格：(100~95：A+ 94~80：A 79~70：B 69~60：C) 不合格(59~0：D) 仮処置：保留</p>			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
講義・ディスカッション形式を基本とする。夏課題の作品提出による担当専任教員の採点。			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科/ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2022年度	1年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	技法力	鈴木吐志哉	1.5単位 39時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
<p>基礎課程として1年次に、表現の根本になる5つのエレメントに分けて指導を行う。5つのエレメントとは「技法力」「観察力」「構成力」「企画力」「表現力」を指す。将来どんな活動をする上でも基本的な「体」ができていないと多様なものは生まれてこない。1年次前期で基礎力をしっかり身に付けることで、クリエイティブの入り口に立つことができ、2年、3年の授業も「なぜこれをやるのか」を理解できるようになる。その一番大事な部分を取り組む授業が「5つの力」である。上手に描けていながら、自分の描写力に自信のない人。そういった人がこの5つの力を通過する事によって苦手意識を克服し、次世代のプロを育成する足がかりとする。もの作りの構造を理解し、時代に対応できる力をつけることを目標とする。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
<p>技法力は様々な版画の技法から生まれる表現を体験しながら探る授業です。まずフロタージュから始まりモノタイプやシルクスクリーンなど、直接描くことでは得られない間接表現の魅力を学びます。さらに本校収蔵の葛飾北斎「神奈川沖浪裏」復刻版の版木をキーワードに、自由な表現による木版画、コラージュへと展開させてゆきます。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	フロタージュ		
2	モノタイプ (トランスファー)		
3	モノタイプ (スクラッチ)		
4	シルクスクリーン (原稿制作)		
5	シルクスクリーン (刷り)		
6	シリコンリトグラフ (版制作)		
7	シリコンリトグラフ (刷り)		
8	木版画 (正方形の版木を使って) 葛飾北斎 (復刻版版木の摺り体験)		
9	木版画 (正方形の版木を使って) 葛飾北斎 (復刻版版木の摺り体験)		
10	木版画 (正方形の版木を使って) 葛飾北斎 (復刻版版木の摺り体験)		
11	コラグラフ (版制作) (葛飾北斎復刻版版木の摺り体験)		
12	コラグラフ (刷り) (葛飾北斎復刻版版木の摺り体験)		
13	講評会		
<b>【成績評価方法】</b>			
<p>課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。          なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。          合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留</p>			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。</p>			
<p>1968年東京都生まれ。創形美術学校研究科版画課程修了。アーティスト・イン・レジデンス アートスタジオ五日市滞在。2002年文化庁芸術家国内研修員。現代日本美術展(神奈川県立近代美術館賞)。日本版画協会展(準会員佳作)。飛騨高山現代木版画ビエンナーレ(大賞)、SUVREMENA JAPANSKA GRAFIKA、国際木版画会議-木版ぞめぎ、TRIBUNA GRAPHIC 2015、中日現代版画展 他、(社)日本版画協会会員。版画学会会員。</p>			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科/ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2022年度	1年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	観察力	工藤礼二郎	3単位 78時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
<p>基礎課程として1年次に、表現の根本になる5つのエレメントに分けて指導を行う。5つのエレメントとは「技法力」「観察力」「構成力」「企画力」「表現力」を指す。将来どんな活動をする上でも基本的な「体」ができていないと多様なものは生まれてこない。1年次前期で基礎力をしっかり身に付けることで、クリエイティブの入り口に立つことができ、2年、3年の授業も「なぜこれをやるのか」を理解できるようになる。その一番大事な部分を取り組む授業が「5つの力」である。上手に描けていながら、自分の描写力に自信のない人。そういった人がこの5つの力を通過する事によって苦手意識を克服し、次世代のプロを育成する足がかりとする。もの作りの構造を理解し、時代に対応できる力をつけることを目標とする。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
<p>観察力では単に描写力を鍛えるだけでなく、描くことを通して物事を深く見つめることのできる力を養っていきます。それはプロのクリエイターとして必要かつ重要なことです。じっくりと物と対話しながら描くことの面白さと大切さを学びます。鉛筆、木炭デッサンから始まり、人体デッサン、水彩、油画など絵画表現の基礎を身につけます。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	鉛筆デッサン( 静物)		
2	講師作品解説/鉛筆デッサン( 静物)		
3	制作実演/木炭デッサン( 静物)		
4	木炭デッサン( 静物)		
5	美術解剖学講座/人体クロッキー (男性)		
6	美術解剖学講座/人体クロッキー (女性)		
7	人体デッサン (男性座りポーズ)		
8	人体ヌードデッサン (女性寝ポーズ)		
9	人体コスチュームデッサン (座りポーズ)		
10	水彩描写 (顔を描く)		
11	水彩描写 (風景を描く)		
12	基礎油画		
13	基礎油画		
<b>【成績評価方法】</b>			
<p>課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。          なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。          合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留</p>			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。</p> <p><u>1964年大阪府生まれ。1990年創形美術学校造形科卒業。1991年同校研究科絵画造形課程修了。1996年渡仏、パリ国際芸術都市滞在。東京・大阪・パリで個展(ギャラリー現、ギャラリーエ アンドウ等、多数) その他グループ展多数。無所属。</u></p>			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科/ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2022年度	1年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	構成力	山本哲次	1.5単位 39時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
<p>基礎課程として1年次に、表現の根本になる5つのエレメントに分けて指導を行う。5つのエレメントとは「技法力」「観察力」「構成力」「企画力」「表現力」を指す。将来どんな活動をする上でも基本的な「体」ができていないと多様なものは生まれてこない。1年次前期で基礎力をしっかり身に付けることで、クリエイティブの入り口に立つことができ、2年、3年の授業も「なぜこれをやるのか」を理解できるようになる。その一番大事な部分を取り組む授業が「5つの力」である。上手に描けていながら、自分の描写力に自信のない人。そういった人がこの5つの力を通過する事によって苦手意識を克服し、次世代のプロを育成する足がかりとする。もの作りの構造を理解し、時代に対応できる力をつけることを目標とする。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
<p>構成力は構図、レイアウトなど、組み立てる力をつける授業です。対象物をじっくり観察し、特徴を捉え、どういう構図やレイアウトがベストなのか、作品の分析や制作を通して身につけていきます。同時にデザインの考え方を学んでいく授業です。制作の一連の流れを体験しながら自分自身で作品を評価、分析することも学んでいきます。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	シンボルマーク/観察・分析		
3	シンボルマーク/描写		
4	シンボルマーク/色面構成		
5	シンボルマーク/マーク制作		
6	シンボルマーク/検証/評価		
7	フライヤー/分解・分析		
8	フライヤー/アイデアスケッチ		
9	フライヤー/構築・表現		
10	フライヤー/構築・表現		
11	フライヤー/構築・表現		
12	フライヤー/検証・評価		
13	フライヤー講評・構成力総評		
<b>【成績評価方法】</b>			
<p>課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格:(100~95:A+ 94~80:A 79~70:B 69~60:C) 不合格(59~0:D) 仮処置:保留</p>			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。 1962年千葉県生まれ。東京藝術大学大学院V.C.D専攻修了。花王株式会社を経て、1993年山本デザイン室を設立。花王、りそな銀行をはじめとした広告、パッケージ、クラレ、東京交響楽団、NewYorkerなどのCI/VIのデザインに携わる。日本雑誌広告賞、グッドデザイン賞、デザインフォーラム、世界ポスタートリエンナーレトヤマ他、受賞多数。JAGDA総務財務委員・東京TDC会員・日本デザイン団体協議会(D-8)JDM設立研究委員・東京都中央区サッカー協会理事。</p>			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科/ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2022年度	1年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	企画力	岡山拓史	1.5単位 36時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
<p>基礎課程として1年次に、表現の根本になる5つのエレメントに分けて指導を行う。5つのエレメントとは「技法力」「観察力」「構成力」「企画力」「表現力」を指す。将来どんな活動をする上でも基本的な「体」ができていないと多様なものは生まれてこない。1年次前期で基礎力をしっかり身に付けることで、クリエイティブの入り口に立つことができ、2年、3年の授業も「なぜこれをやるのか」を理解できるようになる。その一番大事な部分を取り組む授業が「5つの力」である。上手に描けていながら、自分の描写力に自信のない人。そういった人がこの5つの力を通過する事によって苦手意識を克服し、次世代のプロを育成する足がかりとする。もの作りの構造を理解し、時代に対応できる力をつけることを目標とする。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
<p>個人が企画やアイデアを求められる場面は現代社会では非常に多くなっています。企画力ではアイデアの出し方、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、実現力などクリエイティブの現場で必要となるスキルを、課題制作を通して養います。そして社会との繋がりを意識してもらいます。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション / 課題制作A-1		
2	課題制作A-2		
3	課題制作A-3		
4	課題制作A-4		
5	課題制作A-5		
6	課題制作A-6		
7	プレゼンテーション/講評		
8	課題制作B-1		
9	課題制作B-2		
10	課題制作B-3		
11	課題制作B-4		
12	プレゼンテーション/講評		
<b>【成績評価方法】</b>			
<p>課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。          なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。          合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留</p>			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。</p> <p><u>1980年神奈川県生まれ。東京デザイン専門学校卒業。スペースシャワーTVの映像制作部門「SEP」、デザイン事務所「FU TO NE」を経て2016年独立。グラフィック、ムービー、ウェブなどジャンルを問わずデザイナー/アートディレクターとして活動中。JAGDA正会員。</u></p>			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科/ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2022年度	1年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	表現力	飯田 淳	1.5単位 36時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
<p>基礎課程として1年次に、表現の根本になる5つのエレメントに分けて指導を行う。5つのエレメントとは「技法力」「観察力」「構成力」「企画力」「表現力」を指す。将来どんな活動をする上でも基本的な「体」ができていないと多様なものは生まれてこない。1年次前期で基礎力をしっかり身に付けることで、クリエイティブの入り口に立つことができ、2年、3年の授業も「なぜこれをやるのか」を理解できるようになる。その一番大事な部分を取り組む授業が「5つの力」である。上手に描けていながら、自分の描写力に自信のない人。そういった人がこの5つの力を通過する事によって苦手意識を克服し、次世代のプロを育成する足がかりとする。もの作りの構造を理解し、時代に対応できる力をつけることを目標とする。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
<p>表現力は柔らかな発想のもと、物や事、ストーリーを色で表現する授業です。決めつけで物を作らず、固定概念に囚われない事。意外性のある課題を通して「自分の枠」を飛び越え、個性が重視されるイラストの世界に近づくための授業でもあります。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション/課題説明①		
2	制作		
3	制作		
4	発表/課題説明②		
5	制作		
6	制作		
7	発表/課題説明③		
8	制作		
9	制作		
10	発表/課題説明④		
11	制作		
12	講評		
<b>【成績評価方法】</b>			
<p>課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。          なお出席が全体の2/3以下の場合、成績評価の対象外となる。          合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留</p>			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。</p>			
<p>東京都生まれ。多摩美術大学グラフィックデザイン科卒業。『HERMÈS Collection Homme Automne-Hiver 2008 INVITATION』のイラストレーション。『THE CONRAN SHOP』07と08のオリジナルイラストダイアリー。『an・an』『クロワッサン』『クーネル』など、多数の女性誌イラストレーション。雑誌『GINZA』のロゴデザイン。原宿のハンカチーフショップ『パルトゥーズ』をプロデュース。TIS会員。</p>			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科/ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2022年度	1年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	伝統と現代	小林大悟	1.5単位 33時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
<p>「日本美術」を題材に、ときに拡大解釈も混じえながら実技制作を行なっていきます。この授業で重きを置くのは技術習得や作品の出来上がりではなく、不慣れな画材を通じてそれぞれが実験・発見を積み上げていくことです。授業では複数人での共同制作や鑑賞会といった普段とは少し異なる環境も織り交ぜます。授業を通じ日本美術へと関心を持つきっかけをつくり、今後専門分野に分かれても応用していける引き出し作りを目指します。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
<p>ワークショップ形式の課題を通じて、日常的に接する機会の少ない「日本美術」や「伝統」に関わる素材や題材に広く触れていきます。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション/課題説明		
2	長い紙に描いてみよう		
3	長い紙に描いてみよう 続きと鑑賞会		
4	墨で見つけよう 外		
5	墨で見つけよう 中		
6	墨絵を軸装しよう&鑑賞会		
7	現代鳥獣戯画を描こう		
8	現代妖怪を描こう 準備		
9	現代妖怪を描こう 制作		
10	現代妖怪を描こう 続き		
11	現代妖怪を描こう 鑑賞会		
<b>【成績評価方法】</b>			
<p>課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。          なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。          合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留</p>			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。  <u>1990年東京都生まれ。2014年多摩美術大学美術学部絵画学科日本画専攻卒業。2017年アートコミュニケーター『とびらプロジェクト』3期修了。絵画作品の展示発表他、絵本制作や北海道でのレジデンスプロジェクト、ワークショップ活動など幅広く活動。</u></p>			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科/ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2022年度	1年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	MAC講座A	高林直俊	1単位 22.5時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
イラストレーターやデザイナーなどデザイン業界に携わる際に、印刷物（紙媒体）をベースとした各メディアのデータ作成に必要な基礎知識やスキルなどを身につけることを目指します。また他業種などの道を選ぶにしても自己アピールの際に必要な最低限のスキルを身につけます。			
<b>【講義概要】</b>			
前期では基礎的なPCの使い方、IllustratorおよびPhotoshopの基礎的知識、技術を身につけるための授業を行います。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション、Macに触れる		
2	データ作成の基礎、データ名・データ作成・データ送信		
3	Illustratorとは、Illustratorに触れる		
4	Photoshopとは、Photoshopに触れる		
5	Illustrator_基礎A、Illustratorの基礎、基礎操作、ツール、図形、イラスト、文字の扱い方、印刷知識		
6	Illustrator_基礎B		
7	Photoshop 基礎A、Photoshopの基礎、基礎操作、ツール、画像処理・合成など		
8	Photoshop 基礎B		
9	Illustrator & Photoshop		
10	【課題A】名刺作成進行		
11	【課題A】名刺作成進行		
12	【課題A】課題提出		
13	【自由課題】作成進行		
14	作成進行		
15	課題提出		
<b>【成績評価方法】</b>			
課題の提出を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
講義・演習形式を基本とするが、各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。アプリケーションソフトの基礎的な使い方を学ぶ。			
1978年東京都生まれ。2001年創形美術学校ビジュアルデザイン科卒業。井上デザイン事務所・カワムラビデオアクティビティを経て2008年に独立。音楽関連の仕事を中心にCD・レコード・アーティストグッズなどを手掛ける。また音楽イベント・写真展・美術館企画展などのアートディレクションなども多数手掛ける。			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科/ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2022年度	1年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	社会とクリエイター	田中北斗	1単位 18時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
<p>毎回、講義を中心にプロのクリエイターに必要な知識や考え方を養います。授業時間内の後半では、様々なテーマに合わせ、各自の意見やアイデアを文章やラフスケッチなどで表現、提出。発表など行う場合もあります。ゲストを招いたトークセッションでは、プロのクリエイターになるためのプロセスなどを伺います。質問コーナーも予定。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
<p>クリエイターになるための考え方（アイデアや企画）や社会との関わり方、コミュニケーションの大切さなどを講義やゲストを招いたトークセッションを通して学びます。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	「クリエイターになるために1」		
3	クリエイタートーク		
4	「クリエイターになるために2」		
5	「社会を巻き込むアイデア1」		
6	クリエイタートーク		
7	「社会を巻き込むアイデア2」		
8	発表「みんなのアイデアを聞こう」		
9	クリエイタートーク		
10	「セルフプロデュース1」		
11	発表「私のセルフプロデュース」		
12	クリエイタートーク		
<b>【成績評価方法】</b>			
<p>課題の提出を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。            なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。            合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留</p>			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>講義・ディスカッション形式を基本とするが、各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。</p>			
<p><u>1971年東京都生まれ。1994年創形美術学校グラフィックデザイン科卒業。1995年同校研究科修了。2002年ホクトデザインルーム設立。企業や店舗のブランディング、グラフィックデザイン、WEBディレクションなどを中心に活動。豊島区のイベントプロデュースも手掛ける。東京都中小企業支援専門家（デザインコンサルティング）。</u></p>			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科/ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2022年度	1年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	感性と表現1	富岡由理弥	0.3単位 9時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
クラシック音楽の基礎や、音楽の歴史などを学びながら、空間芸術に対して時間芸術がどのようなものであるかを学ぶ。さまざまなリズムや音が何を表しているのかをイメージし、想像力を養っていく。実際の実技も伴う。			
<b>【講義概要】</b>			
芸術性を身につける為には広い視野で、様々な芸術に触れる機会が必要。美術と音楽にも共通点があると考え、音楽の知識や感覚を少しでも知る事により、自身の作品に生かして貰いたい。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション/アンケート、音楽と美術のつながり、音楽の歴史など。		
2	音楽修辞学。各作曲家のエピソードなど		
3	心の表現方法。音楽において言葉をどのように聴衆へ伝えるか。		
4	リズムから言葉をイメージしていく。想像力を養う。		
5	腹式呼吸や発声を体験。声はどのように出ているのかを実感する。		
6	実技とレポート提出		
<b>【成績評価方法】</b>			
課題の提出を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格：(100~95：A+ 94~80：A 79~70：B 69~60：C) 不合格(59~0：D) 仮処置：保留			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
講義・ディスカッション形式を基本とするが、各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。			
洗足学園音楽大学付属高校音楽科を経て同大学声楽課卒業。二期会オペラ研修所54期修了。第13回長江杯国際音楽コンクール第1位。第12回本演奏家コンクール最高位。第15回カンツォーネコンクール審査員特別賞受賞中国駐大阪総領事賞受賞。二期会正会員オーディション合格。二期会会員。			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科/ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2022年度	1年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	感性と表現2	尼子 靖	0.3単位 9時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
多様な立体表現の可能性を、アート、デザイン、舞台美術等より、コンテンツとしてレクチャー形式で学ぶ。また、実践的な立体表現を、「紙」をメイン素材とした課題で、イメージの創り方、構成、加工方法等の基礎技術を習得する。			
<b>【講義概要】</b>			
自己のクリエイティブな感性、表現の可能性を2次元に留まらず、3次元の世界に視野を広げ、感性の幅を広げることを目指す。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	空間表現に関わるアート、デザイン等のレクチャー&課題説明。次回に向けての家庭課題。		
2	アイデアスケッチを元に、紙で試作を作りながらアイデアを練る。		
3	アイデアを発表後、調整、決定して制作の段取りを決める。		
4	制作		
5	制作～作品完成		
6	講評会		
<b>【成績評価方法】</b>			
課題の提出を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格：(100~95：A+ 94~80：A 79~70：B 69~60：C) 不合格(59~0：D) 仮処置：保留			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
講義・ディスカッション形式を基本とするが、各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。			
ステンレスを中心としたエクステリアプロダクトの商品開発、野外モニュメントの設計および制作、ディスプレイのデザイン制作等、幅広く立体&空間デザインの業務を行う。一方、造形作家として、数々の個展、グループ展にて、作品を発表を行う。			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科/ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2022年度	1年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	感性と表現3	高倉公美	0.3単位 9時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
<p>クリエイターになるための考え方(アイデアや企画)や社会との関わり方の知識を感じ得てもらいつつ、実技では自分のデザインを衣装観点から形にしてゆく。二次元デザインは現実には落とし込めるのか、の検証をする。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
<p>アニメやゲームの世界を衣装の観点からみてゆく。アニメのみならず憧れのファッションスタイルでも可。全員デザイン画を描き提出し実現可能か検証する。次に、一つのことに焦点を当てて提案する重要性を考えてゆく。今回はポケットの奥深さを体験していただき、実用可能な作品を作ってゆき、発表する。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	二次元デザインと三次元デザインの考え方 デザイン画を描く		
2	デザイン画を基に生地を決めていく、その考え方 スワッチを準備		
3	一つのテーマに絞る考え 方、他者から分かりやすく ポケットについて		
4	ポケットをつけていく		
5	作品完成後写真撮影		
6	写真発表、審査、感想文		
<b>【成績評価方法】</b>			
<p>課題の提出を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。            なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。            合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留</p>			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>講義・ディスカッション形式を基本とするが、各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。</p>			
<p>1979年福岡生まれ。国立久留米高専制御情報工学科にてプログラミング専攻、卒業。NHK BS報道局で働きつつ師匠に出会い衣装制作を始める。TVコマーシャル、広告、芸能関係に強く衣装デザイナーとして もう一つ ドレス・クチュールデザイナーと二つの生き方をしている。</p>			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科 昼間部 (3年制)	2022年度	1年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	前期ファインアート基礎	工藤礼二郎、鈴木吐志哉	2.5単位 81時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
<p>現代の絵画や版画に強い影響を与えた西洋近代絵画の種々の表現に触れ、絵に対する視野を広げながら描くことの楽しさを見つける授業です。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
<p>①絵画の表面：絵画の特徴的要素に「マチエール(絵肌)」があります。単なる絵の具がマチエールを通して絵画としての魅力にどのように繋がるかを体験してみましょう。</p> <p>②写真と絵画：19世紀に確立された「写真」は絵画にも多大な影響を与えました。この授業では「写真のように描く」といった直接的な手法ではなく写真の中の要素をいかに「絵画化」するかを考えてみます。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション／素材集め	18	タブロー制作
2	コラージュ制作	19	タブロー制作
3	コラージュ制作／タブロー制作	20	タブロー制作
4	タブロー制作	21	タブロー制作
5	タブロー制作	22	タブロー制作
6	タブロー制作	23	タブロー制作
7	タブロー制作	24	タブロー制作
8	タブロー制作	25	タブロー制作
9	タブロー制作	26	タブロー制作
10	タブロー制作	27	講評
11	タブロー制作		
12	タブロー制作		
13	タブロー制作		
14	中間講評		
15	タブロー制作		
16	タブロー制作		
17	タブロー制作		
<b>【成績評価方法】</b>			
<p>課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。          なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。          合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留</p>			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。</p> <p>工藤 礼二郎：1964年大阪府生まれ。1990年創形美術学校造形科卒業。1991年同校研究科絵画造形課程修了。          1996年渡仏、パリ国際芸術都市滞在。東京・大阪・パリで個展（ギャラリー現、ギャラリエ アンドウ等、多数）その他グループ展多数。無所属。</p> <p>鈴木吐志哉：1968年東京都生まれ。創形美術学校研究科版画課程修了。アーティスト・イン・レジデンス アートスタジオ五日市滞在。2002年文化庁芸術家国内研修員。現代日本美術展（神奈川県立近代美術館）。日本版画協会展（準会員佳作）。飛騨高山現代木版画ビエンナーレ（大賞）、SUVREMENA JAPANSKA GRAFIKA、国際木版画会議-木版ぞめき、TRIBUNA GRAPHIC 2015、中日現代版画展 他、（社）日本版画協会会員。版画学会会員。</p>			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2022年度	1年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	前期ビジュアルデザイン基礎	山本哲次、岡山拓史	2.5単位 81時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
自分の好きなミュージシャンのCDジャケットとポスターをオリジナルで制作します。			
<b>【講義概要】</b>			
イラストや文字情報を限られたスペースの中に収めながら、音楽から受けるイメージを広げて、ビジュアルで表現することを学びます。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション	18	制作指導
2	制作	19	制作
3	制作	20	制作
4	制作指導	21	制作
5	制作	22	中間講評
6	制作	23	制作
7	制作	24	制作
8	中間講評	25	制作指導
9	制作	26	制作
10	制作	27	総合講評
11	制作指導		
12	制作		
13	制作		
14	制作		
15	中間講評		
16	制作		
17	制作		
<b>【成績評価方法】</b>			
課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。			
山本 哲次：1962年千葉県生まれ。東京藝術大学大学院V.C.D専攻修了。花王株式会社を経て、1993年山本デザイン室を設立。花王、りそな銀行をはじめとした広告、パッケージ、クラレ、東京交響楽団、NewYorkerなどのCI.VIのデザインに携わる。日本雑誌広告賞、グッドデザイン賞、デザインフォーラム、世界ポスタートリエンナーレトヤマ他、受賞多数。JAGDA総務財務委員・東京TDC会員・日本デザイン団体協議会(D-8)JDM設立研究委員・東京都中央区サッカー協会理事。			
岡山 拓史：1980年神奈川県生まれ。東京デザイン専門学校卒業。スペースシャワーTVの映像制作部門「SEP」、デザイン事務所「FUTONE」を経て2016年独立。グラフィック、ムービー、ウェブなどジャンルを問わずデザイナー／アートディレクターとして活動中。JAGDA正会員			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科/ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2022年度	1年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
学科	MAC講座B	高林直俊	1単位 22.5時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
後期でも基礎的なPCの使い方、IllustratorおよびPhotoshopの基礎的知識を身につけながら、更にアプリケーションの理解力を掘り下げた授業を行います。			
<b>【講義概要】</b>			
イラストレーターやデザイナーなどデザイン業界に携わる際に、印刷物（紙媒体）をベースとした各メディアのデータ作成に必要な基礎知識やスキルなどを身につけることを目指します。また他業種などの道を選ぶにしても自己アピールの際に必要な最低限のスキルを身につけます。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	MAC講座Aの復習		
2	実データに触れる、仕事のデータに触れる		
3	実データに触れる		
4	Illustrator_応用A、Illustratorの応用（レイアウトなど）		
5	Illustrator_応用B		
6	Photoshop_応用A、Photoshopの応用（画像処理など）		
7	Photoshop_応用B		
8	【課題 B】ポストカード作成、初日に完成までの流れやポイントなどを説明、表面&裏面：自由（テーマあり）		
9	制作 チェック		
10	制作チェック		
11	制作 チェック		
12	講評		
13	小課題、製作から提出まで完結させる、（瞬発力・姿勢・センス・技量・ボキャブラリー・熱量）		
14	小課題		
15	小課題		
<b>【成績評価方法】</b>			
課題の提出を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格：(100~95：A+ 94~80：A 79~70：B 69~60：C) 不合格(59~0：D) 仮処置：保留			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
講義・演習形式を基本とするが、各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。アプリケーションソフトの基礎的な使い方を学ぶ。			
1978年東京都生まれ。2001年創形美術学校ビジュアルデザイン科卒業。井上デザイン事務所・カワムラヒデオアクティビティを経て2008年に独立。音楽関連の仕事を中心にCD・レコード・アーティストグッズなどを手掛ける。また音楽イベント・写真展・美術館企画展などのアートディレクションなども多数手掛ける。			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科/ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2022年度	1年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	感性と表現4	大石恵美子	0.3単位 9時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
<p>【課題1】 創作力・表現力を鍛えるために「インプット」を習慣づける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が「何を」「何で」好きなのか?をこの機会に熟考し、その魅力を他人に説明する技術を習得する。</li> <li>・課題終了時に1学年分の「好きなモノ」が集まるので、それらから興味の幅を広げて欲しい。</li> </ul> <p>【課題2】 何から刺激を受けて、何を作るか?その流れを体験する。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
<p>【課題1】 「映画・動画・アニメ」「漫画・小説」「芸術家」「場所(美術館・博物館・ギャラリー)」これら4つのジャンルの自分の好きなベスト3を「文章と画像」で魅力的に紹介する。</p> <p>【課題2】 課題1で紹介するために用いた画像の中から1つを選び、そこからインスピレーションを受けた作品を作る。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション/課題説明		
2	【課題1-1】 提出・鑑賞		
3	【課題1-2】 提出・鑑賞		
4	【課題1-3】 提出・鑑賞		
5	【課題1-4】 提出・鑑賞		
6	【課題2】 提出・鑑賞		
<b>【成績評価方法】</b>			
<p>課題の提出を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。</p> <p>なお出席が全体の2/3以下の場合、成績評価の対象外となる。</p> <p>合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留</p>			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>講義・ディスカッション形式を基本とするが、各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。</p> <p>アートディレクター。1987年東京藝術大学卒業。1989年同大学院デザイン科修了。株式会社電通入社。ニューヨークADC、ニューヨークフェスティバル、クリオ賞、カンヌ広告賞、他受賞多数。『新アートディレクター入門』編集、『プロモーションとアートディレクション』執筆。</p>			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科/ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2022年度	1年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	感性と表現5	田野倉康一	0.3単位 9時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
<p>毎回、授業の最初に講師が同時代の詩を朗読、紹介するとともに、講義においては、詩に対する理解を深めることにより、ファインアート、デザインの実践に、言葉の側面から寄与したい。また、その目的において、詩の実技指導も行う。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
<p>受講者がそれぞれに詩に触れ、受容し、詩作することを通して、他人の言葉に左右されることなく、ファインアートやデザインの実践の中で言葉とうまく付き合っていけるようになること。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	詩とはなにか。あるいは詩の現在について		
3	詩と美術・詩とデザイン		
4	詩の作り方・実技指導		
5	実技指導		
6	講評会		
<b>【成績評価方法】</b>			
<p>課題の提出を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。            なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。            合格：(100~95：A+ 94~80：A 79~70：B 69~60：C) 不合格(59~0：D) 仮処置：保留</p>			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>講義・ディスカッション形式を基本とするが、各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。</p>			
<p>1960年生まれ。明治大学文学部文学科フランス文学専攻卒、2002年第13回歷程新鋭賞受賞、現代詩文庫『田野倉康一詩集』をはじめ、単行詩集5冊、共著4冊、編書1冊のほか、山田正亮展（東京国立近代美術館）、イケムラレイコ展（ヴァンジ彫刻庭園美術館）など展覧会のカタログテキストの執筆多数。</p>			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科 ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2022年度	1年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技 選択必修	銅版画基礎	長島 充	1単位 45時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
銅版画の基本的なエッチング技法での制作により版画に親しんでもらう。「自然物」をモチーフに線描と点描によるモノクロームの描写力・表現力を養う。			
<b>【講義概要】</b>			
腐食銅版画の中で最も基本的な技法であるライン・エッチング技法によりモノクロームの銅版画1点(18×24cm)を作ります。ドローイングにも感覚の近い線描と点描を用いて自然物を観察し銅板という物質に表現していきます。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	ガイダンス+版の準備		
2	下絵トレース・描画+腐食指導		
3	描画制作		
4	描画制作		
5	試し刷り指導		
6	描画・彫版指導		
7	彫版制作		
8	試し刷り～再彫版		
9	彫版制作		
10	彫版制作		
11	試し刷り～再彫版		
12	彫版制作		
13	本刷り指導		
14	本刷り		
15	講評		
<b>【成績評価方法】</b>			
課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。			
1959年千葉県生まれ。創形美術学校研究科版画課程修了。1984年～日本版画協会展出品(以後毎年)、R.O.C.国際版画・素描ビエンナーレ版画部門銀賞、カプラム国際版画ビエンナーレ名誉メダル賞、日本版画協会展進会員賞、イビザ国際版画ビエンナーレ最高賞、環太平洋国際版画展2011特別賞受賞。その他国際版画展、美術館企画展多数出品。(社)日本版画協会会員。			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科 ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2022年度	1年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技 選択必修	シルクスクリーン基礎	東樋口徹	1単位 45時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
<p>シルクスクリーンは別名孔版と呼ばれ、型染めの型紙と紗が組み合わされて改良されたものです。枠に張った紗の目を unnecessaryな部分は塞ぎ、画の孔(穴)の部分からスキージによって下の紙にインクを落として刷る技法です。授業においてはいくつかの製版方法がありますが、現在一般的に行われる直接感光法を学びます。基礎を身に付け各自のイメージに近づける作品作りを目指します。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
<p>基本的な水性インクで紙に刷る4版以上を使った作品(A4/21cm×29.7cm)を一点(紙8枚程度)制作。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	技法説明		
3	技法説明(製版)		
4	描画制作		
5	描画制作		
6	技法説明(刷り)		
7	版制作		
8	版制作		
9	版指導・印刷実演		
10	改版指導		
11	試し刷り		
12	試し刷り		
13	本刷り指導		
14	本刷り		
15	講評		
<b>【成績評価方法】</b>			
<p>課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。          なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。          合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留</p>			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。  <u>1975年奈良県生まれ。2006年東京藝術大学美術研究科修了。2005年第3回山本鼎版画大賞展準大賞、2007年Prints Tokyo 2007買上賞(三極)、2009年The 2nd NBC MESHTEC TOKYO INTERNATIONAL SCREEN PRINT BIENNIAL 優秀賞。2015アワガミ国際ミニプリント展大賞。(社)日本版画協会会員。</u></p>			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科 ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2022年度	1年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技 選択必修	テンペラ画	安藤孝浩	1単位 42時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
<p>中世美術からルネッサンス期を経て現代にまで受け継がれてきた卵テンペラ技法を学ぶ。卵で作る絵具の造形の自由さ、楽しさを学ぶ。ここでは技法と描写の関係を理解し、絵画表現の幅広い可能性を追求する。絵画模写をしながらテンペラ技術の基礎と応用を修得する。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
<p>木材板の基材に地塗りをしパネルを作る。卵テンペラ（水性画材）をつくり、描画材として絵画模写をする。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション、下地作り、下絵（転写）		
2	下絵（転写）金箔分け、ポー口塗り		
3	ポー口塗り、金箔貼り		
4	卵テンペラによる描写		
5	卵テンペラによる描写		
6	卵テンペラによる描写		
7	卵テンペラによる描写		
8	卵テンペラによる描写		
9	卵テンペラによる描写		
10	卵テンペラによる描写		
11	卵テンペラによる描写		
12	卵テンペラによる描写		
13	卵テンペラによる描写		
14	講評		
<b>【成績評価方法】</b>			
<p>課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。          なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。          合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留</p>			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。</p> <p><u>1991年東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業。2016年～2019年東京藝術大学非常勤講師。現在、科学とアートを橋断する作品を制作。主な活動として、2009年～2012年宇宙航空研究開発機構（JAXA）とコラボレーションした文化・人文社会科学利用パイロットミッション『お地球見』（ISS国際宇宙ステーションにて実施）など。</u></p>			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科 ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2022年度	1年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技 選択必修	フレスコ画	杉崎匡史	1単位 42時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
<p>油彩画以前の一つの古典技法であるフレスコ画技法は、消石灰と砂を混ぜたもので漆喰壁を作り、その壁が乾き切らぬうちに顔料を水のみで溶いて描ききるもので、空気中の二酸化炭素と反応した石灰成分が顔料を閉じこめ、半永久的に壁画は色褪せることがない。壁や石灰といった素材の強さにおいては代え難いものがあり、光沢の無い自然な質感や、制約の中で必要とされる高い集中力、五感だけでなく身体を目一杯使って体感することなど、その中に潜む一つの可能性を探求する。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
<p>古典技法としてのフレスコ画技法を模写を通して試みる。物質が変化していく、その体験を目の当たりにしながら、実直に絵と向き合う時間に身をゆだね、その中で自身の展開に繋がられるのか考えてみる。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	ガイダンス・フレスコ剥がし・原画選択・拡大コピー		
2	モルタル作り・地塗り・壁荒らし・拡大コピー続き		
3	モルタル再練り・カルトーン制作・顔料練り		
4	カルトーン制作・顔料練り		
5	モルタル再練り・中塗り・シノピア・壁荒らし		
6	モルタル再練り・上塗り①・描画①・ジョルナータ線削り		
7	上塗り②・描画②・ジョルナータ線削り		
8	モルタル再練り・上塗り③・描画③・ジョルナータ線削り		
9	上塗り④・描画④・ジョルナータ線削り		
10	モルタル再練り・上塗り⑤・描画⑤・ジョルナータ線削り		
11	モルタル再練り・上塗り⑥・描画⑥・ジョルナータ線削り		
12	モルタル再練り・上塗り⑦・描画⑦		
13	描画⑦・完成		
14	片付け 講評会		
<b>【成績評価方法】</b>			
<p>課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。          なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。          合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留</p>			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。</p> <p>1967年東京都生まれ。1993年東京藝術大学大学院美術研究科壁画専攻修了。1993年より個展を中心にフレスコ技法を使った立体・レリーフ作品を発表。近年はより作品を平面化し、フレスコ技法を用いた痕跡と色彩のみで構成される作品を発表している。2001年トーキョーワンダーウォール賞。</p>			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科 ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2022年度	1年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	イラストレーション基礎	飯田 淳	1単位 42時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
イラストレーションの仕事と自分らしい表現の発見。			
<b>【講義概要】</b>			
イラストレーションの仕事において求められる事・物を企画。アイデアを通して学ぶ。イラストレーションのマーケットでのオリジナリティー、個性の重要性を作品制作で体験する。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション／課題説明		
2	制作		
3	制作		
4	制作チェック		
5	制作		
6	制作		
7	中間チェック		
8	制作		
9	制作		
10	制作		
11	制作チェック		
12	制作		
13	制作		
14	講評		
<b>【成績評価方法】</b>			
課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。 東京都生まれ。多摩美術大学グラフィックデザイン科卒業。『HERMÈS Collection Homme Automne-Hiver 2008 INVITATION』のイラストレーション。『THE CONRAN SHOP』07と08のオリジナルイラストダイアリー。『an・an』『クロワッサン』『クーネル』など、多数の女性誌イラストレーション。雑誌『GINZA』のロゴデザイン。原宿のハンカチーフショップ『パルトゥーズ』をプロデュース。TIS会員。			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科 ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2022年度	1年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	アニメーション基礎	飯田 萌	1単位 42時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
手描き、コマ撮り（実写も可）など、自由な表現でアニメーションを制作。編集作業はPremiereを使用する。			
<b>【講義概要】</b>			
映像研究と制作（自由な発想で）			
回	授業計画及び学習の内容		
1	ガイダンス+制作		
2	制作		
3	制作		
4	作画と作品鑑賞		
5	制作		
6	制作		
7	制作		
8	作画と作品鑑賞		
9	制作		
10	制作		
11	作画と作品鑑賞		
12	制作		
13	制作		
14	上映会(講評)		
<b>【成績評価方法】</b>			
課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。 2010年多摩美術大学グラフィックデザイン科卒業。2012年同大学院修了。フジテレビ『ベビスマ』、NHK『デジタル・ティーンズ』にて作品紹介。アニメーション作品『臓器大学』が学生CGコンテスト銀賞、TSSショートムービーフェスティバル佳作受賞など。2015年タンバリンギャラリーにて個展。その他、MONSTER展（ヒカリエ）、MONSTER展inNY、buster call ワンピース展など多数。			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科 ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2022年度	1年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	制作と展示	松尾 龍	1単位 27時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
<p>企画構成・発信・展示を一貫して行えることを目標としています。そして他のグループの展示やテーマ、作品を鑑賞し考察することで、より展示の理解を深めることができたらと思います。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
<p>ギャラリー・プリントにて、グループごと公開制作・展示を行います。授業外の今後の制作活動においても活かせるような実践的なスキルを学習し、一つの展示を自分たちで作り上げる力を養います。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション・グループ分け		
2	各グループのテーマ決め		
3	展示のプランニング 決定したテーマを活かす展示を考える		
4	各グループの展示壁面決め		
5	各グループに分かれて制作		
6	各グループに分かれて制作		
7	グループ同士でのディスカッション (テーマ発表・スペースの決定) ・制作		
8	グループワーク		
9	展示・講評 各グループの展示の感想をプリントに書き提出		
<b>【成績評価方法】</b>			
<p>課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。          なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。          合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格 (59～0：D) 仮処置：保留</p>			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。</p> <p>埼玉県出身。創形美術学校ファインアート科絵画専攻卒業。シテ・デ・ザール滞在後、画家として幅広く活躍。主な個展 5/R Hall&amp;Gallery、埼玉県立近代美術館など。ACT大賞展優秀賞受賞。</p>			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科 ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2022年度	1年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	人物着彩	工藤礼二郎	1単位 36時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
この授業では、単に人体の再現的描写にとどまらず、それを取り巻く空間との関係性や近代以降の人体表現の在り方を様々な角度から検証する。			
<b>【講義概要】</b>			
人体コスチュームモデルを固定ポーズにより描画する。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション 学生間クロッキー		
2	色を使った学生間クロッキー		
3	支持体準備 (キャンバス地塗り/パネル水張り)		
4	モデルによる制作 (エスキース)		
5	モデルによる制作		
6	モデルによる制作		
7	モデルによる制作		
8	モデルによる制作		
9	モデルによる制作		
10	モデルによる制作		
11	モデルによる制作		
12	講評会		
<b>【成績評価方法】</b>			
課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格 (59～0：D) 仮処置：保留			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。 <u>1964年大阪府生まれ。1990年創形美術学校造形科卒業。1991年同校研究科絵画造形課程修了。1996年渡仏、パリ国際芸術都市滞在。東京・大阪・パリで個展 (ギャラリー現、ギャラリーエ アンドウ等、多数) その他グループ展多数。無所属。</u>			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科 ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2022年度	1年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	グラフィックデザイン基礎	奥定泰之、山本哲次	1単位 42時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
人に見せる、人を驚かせる、人を誘惑する、などの実社会におけるグラフィックデザインの基本的な役割を考えつつ、それを踏まえた小型グラフィック作品を考える。紙媒体に使用される文字について考える。			
<b>【講義概要】</b>			
第1・2・3課題：グラフィックデザインやファインアート、イラストなどのジャンルを超えて、ものを作ることの楽しさを体感する。また、タイポグラフィや色面構成などのデザインの基礎を理解した上で、いくつかの小型グラフィック作品を試作する。			
第4課題：文字のデッサンを通して文字の形を知る			
回	授業計画及び学習の内容		
1	ガイダンス、第1課題説明		
2	制作		
3	第1課題確認、第2課題説明		
4	制作		
5	第4課題説明		
6	制作		
7	制作チェック		
8	制作		
9	第2課題確認、第3課題説明		
10	制作		
11	制作チェック		
12	制作のチェックと指導		
13	第4課題講評		
14	全体講評		
<b>【成績評価方法】</b>			
課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。			
奥定泰之：1970年愛媛県生まれ。グラフィックデザイナー。株式会社オクサダデザイン代表。主に書籍や雑誌のデザインを手がける。第40回、46回造本装幀コンクール入賞。第2回竹尾賞優秀賞。共著に『感性と社会』（論創社）、『近代デザイン史』（武蔵野美術大学出版局）。JAGDA会員。早稲田大学非常勤講師。			
山本哲次：1962年千葉県生まれ。東京藝術大学大学院V.C.D専攻修了。花王株式会社を経て、1993年山本デザイン室を設立。花王、りそな銀行をはじめとした広告、パッケージ、クラレ、東京交響楽団、NewYorkerなどのCLVのデザインに携わる。日本雑誌広告賞、グッドデザイン賞、デザインフォーラム、世界ポスタートリエナーレトヤマ他、受賞多数。JAGDA総務財務委員・東京TDC会員・日本デザイン団体協議会（D-8）JDM設立研究委員・東京都中央区サッカー協会理事。			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科 ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2022年度	1年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	コミック基礎	石山さやか	1単位 51時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
<p>まずは漫画というものに触れ、親しんでみます。自分が今まで見てきた以外にも様々な表現方法の漫画が存在すること、言いたいことや見せたいものによって構成も描き方も変わってくることを、実際に手を動かすことで学びます。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
<p>『漫画』とはそもそも何か、実際の漫画作品やその表現の多様性を眺めつつ、自分でも短い漫画作品を作ってみます。現代の漫画作品の発信方法やデビューまでの道筋、また制作の基本的な工程についても学びます。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション／講師自己紹介／課題1「自分を元にしたキャラクターを作ってみよう」		
2	制作		
3	制作		
4	課題1・講評		
5	講義「漫画を描く手順」「テーマを見つける発想法」		
6	課題2「1ページ漫画を描いてみよう」		
7	制作		
8	制作		
9	進捗チェック (ネーム)		
10	制作		
11	制作		
12	進捗チェック (下書き・ペン入れ)		
13	制作		
14	制作		
15	制作		
16	制作		
17	課題2・講評		
<b>【成績評価方法】</b>			
<p>課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。          なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。          合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留</p>			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。</p>			
<p>1981年埼玉県生まれ。創形美術学校ビジュアルデザイン科イラストレーション専攻卒業。都内の広告代理店で勤務後、イラストレーター・漫画家としての活動を始める。主な仕事は書籍装丁、雑誌挿絵、児童書挿絵、CDジャケットなど。2017年に初の単行本『サザンウィンドウ・サザンドア』（祥伝社）発売。</p>			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科 ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2022年度	1年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	専攻別テーマ制作(絵画造形専攻)	工藤礼二郎	2単位 48時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
1年次における作家研究。歴史上の近代画家を各自選択し、その造形要素を解析すると同時に自らの作品に反映させることを試みる。作品サイズは8～10号を1点制作。			
<b>【講義概要】</b>			
今後の各学生の制作目標の基点とするため、まずは絵画の文脈を知ることから始め、その中でも特に近代絵画に焦点を当て、実践を通してその造形性を理解する。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	ガイダンス・テーマの決定		
2	目標作家の選定		
3	モチーフの選定		
4	制作		
5	制作指導		
6	制作		
7	制作		
8	制作指導		
9	制作		
10	制作		
11	制作		
12	制作指導		
13	制作		
14	制作		
15	制作		
16	講評会		
<b>【成績評価方法】</b>			
課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。 <u>1964年大阪府生まれ。1990年創形美術学校造形科卒業。1991年同校研究科絵画造形課程修了。1996年渡仏、パリ国際芸術都市滞在。東京・大阪・パリで個展（ギャラリー現、ギャラリーエ アンドウ等、多数）その他グループ展多数。無所属。</u>			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科 ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2022年度	1年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	専攻別テーマ制作(版画専攻)	鈴木吐志哉	2単位 48時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
水性木版画の基本技術の習得。			
<b>【講義概要】</b>			
水性木版画1版単色(墨摺り)モノクロームの大型版木に取り組み制作することで、木版画水性摺り技法の基本と魅力を体験します。版木サイズ 900×600mm			
回	授業計画及び学習の内容		
1	木版画について・版木の準備・スライド作家紹介 / 彫り方の解説		
2	版木にドローイング～彫版		
3	彫版		
4	摺りデモンストレーション・木版画の摺り方/和紙の湿しについて		
5	彫版		
6	彫版 / 試し摺り		
7	彫版 / 試し摺り		
8	彫版 / 試し摺り		
9	表現の展開1・木版画技法解説		
10	彫版 / 試し摺り		
11	彫版 / 試し摺り		
12	表現の展開2・木版画技法解説		
13	彫版/試し摺り		
14	本摺り開始 / 作品の仕上げについて		
15	本摺り		
16	最終講評		
<b>【成績評価方法】</b>			
課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。 1968年東京都生まれ。創形美術学校研究科版画課程修了。アーティスト・イン・レジデンス アートスタジオ五日市滞在。2002年文化庁芸術家国内研修員。現代日本美術展(神奈川県立近代美術館賞)。日本版画協会展(準会員佳作)。飛騨高山現代木版画ビエンナーレ(大賞)、SUVREMENA JAPANSKA G RAFIKA、国際木版画会議-木版ぞめぎ、TRIBUNA GRAPHIC 2015、中日現代版画展 他、(社)日本版画協会会員。版画学会会員。			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科 ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2022年度	1年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	専攻別テーマ制作 (イラストレーション・絵本専攻)	飯田 淳	1単位 48時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
オリジナリティーのある作品を制作し、自分の「良さ」気づく事を目標とする。			
<b>【講義概要】</b>			
見えない物を、見える物にする。例えば、味覚や臭覚、音をビジュアル化する。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	制作		
3	制作		
4	制作		
5	制作チェック		
6	制作		
7	制作		
8	制作		
9	制作チェック		
10	制作		
11	制作		
12	制作		
13	制作チェック		
14	制作		
15	制作		
16	講評会		
<b>【成績評価方法】</b>			
課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。 東京都生まれ。多摩美術大学グラフィックデザイン科卒業。『HERMÈS Collection Homme Automne-Hiver 2008 INVITATION』のイラストレーション。『THE CONRAN SHOP』07と08のオリジナルイラストダイアリー。 『an・an』『クロワッサン』『クーネル』など、多数の女性誌イラストレーション。雑誌『GINZA』のロゴデザイン。原宿のハンカチーフショップ『パルトウーズ』をプロデュース。TIS会員。			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科 ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2022年度	1年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	専攻別テーマ制作 (グラフィックデザイン専攻)	山本哲次	1単位 48時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
<p>1年間で身につけた基礎力を基に、コミュニケーションと表現の関係性の理解が進むことを目標とします。 告知内容を見る人にどう表現すれば伝わるかを、工夫を凝らしながら制作します。 また、限られた紙面の中でどのようにレイアウトすれば良いかを学びます。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
<p>ポスターとフライヤーを、文字をモチーフとしたビジュアルを用いて制作します。その際、配布された原稿の情報が伝わるようにレイアウトします。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	ガイダンス		
2	制作		
3	制作チェック		
4	制作		
5	制作		
6	制作チェック		
7	制作		
8	制作		
9	中間講評		
10	制作		
11	制作		
12	制作		
13	制作チェック		
14	制作		
15	制作		
16	最終講評		
<b>【成績評価方法】</b>			
<p>課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留</p>			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。</p> <p><u>1962年千葉県生まれ。東京藝術大学大学院V.C.D専攻修了。花王株式会社を経て、1993年山本デザイン室を設立。花王、りそな銀行をはじめとした広告、パッケージ、クラレ、東京交響楽団、NewYorkerなどのCI/VIのデザインに携わる。日本雑誌広告賞、グッドデザイン賞、デザインフォーラム、世界ポスタートリエンナーレトヤマ他、受賞多数。JAGDA総務財務委員・東京TDC会員・日本デザイン団体協議会(D-8)JDM設立研究委員・東京都中央区サッカー協会理事。</u></p>			

# 創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科 ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2022年度	1年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	専攻別テーマ制作 (アニメーション&コミック専攻)	岡山拓史	1単位 48時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>			
<p>短期間での企画出し、撮影、編集、スケジュール管理など映像制作の一連の流れを体験。制作した動画は各種メディアで配信。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
<p>映像制作の現場で必要となる知識や技術などの基礎を学び、昨今のメディアやデバイスの特性を理解しながら1本の映像を制作する。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	ガイダンス		
2	制作		
3	制作チェック		
4	制作		
5	制作		
6	制作チェック		
7	制作		
8	制作		
9	中間講評		
10	制作		
11	制作チェック		
12	制作		
13	制作チェック		
14	制作		
15	制作		
16	最終講評		
<b>【成績評価方法】</b>			
<p>課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。          なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。          合格：(100～95：A+ 94～80：A 79～70：B 69～60：C) 不合格(59～0：D) 仮処置：保留</p>			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。  <u>1980年神奈川県生まれ。東京デザイン専門学校卒業。スペースシャワーTVの映像制作部門「SEP」、デザイン事務所「FU TO NE」を経て2016年独立。グラフィック、ムービー、ウェブなどジャンルを問わずデザイナー/アートディレクターとして活動中。JAGDA正会員。</u></p>			